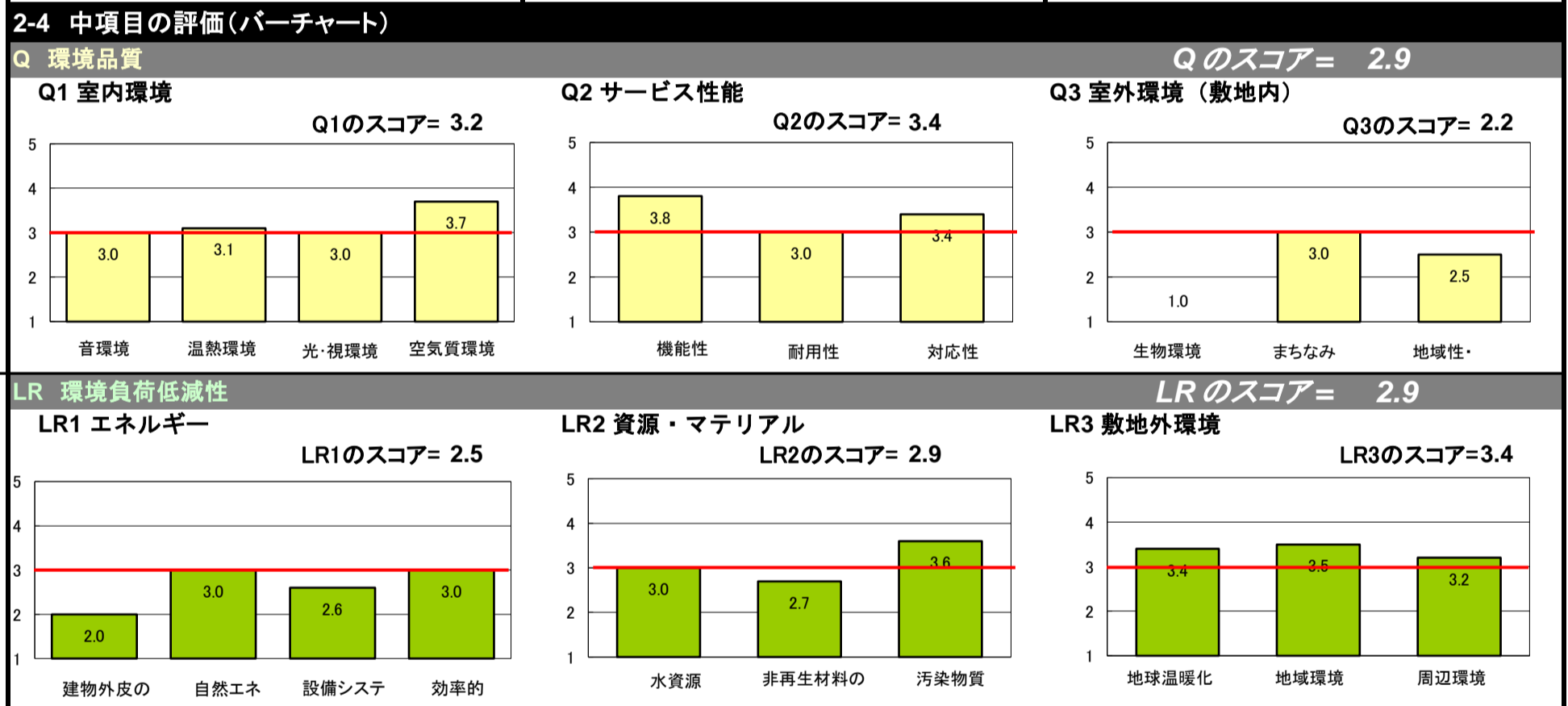
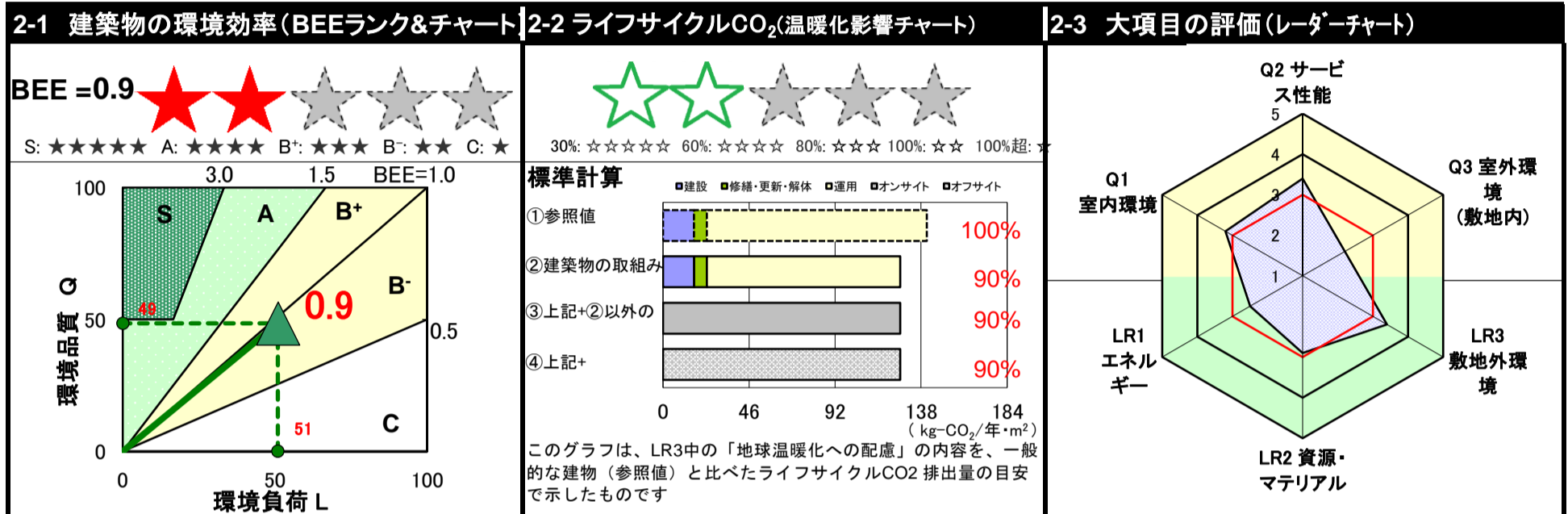


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ビッグモーター春日井店	階数	地上1階、地下1階
建設地	愛知県春日井市東野新町2丁目4-2 他10筆	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	40人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,650時間/年
建物用途	物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年10月6日
敷地面積	7,984 m ²	作成者	石村 直子
建築面積	1,865 m ²	確認日	2021年10月7日
延床面積	2,977 m ²	確認者	池田 登



3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>4.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
					評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質													2.9
Q1 室内環境													3.2
1 音環境													3.0
1.1 室内騒音レベル													
1.2 遮音													
1 開口部遮音性能													3.0
2 界壁遮音性能													3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													3.0
1.3 吸音													3.0
2 温熱環境													3.1
2.1 室温制御													
1 室温													3.0
2 外皮性能													3.0
3 ゾーン別制御性													3.0
2.2 湿度制御													3.0
2.3 空調方式													3.0
ゾーン毎に冷暖切り替え可能													
3 光・視環境													3.0
3.1 昼光利用													
1 昼光率													3.0
2 方位別開口													3.0
3 昼光利用設備													3.0
3.2 グレア対策													
1 昼光制御													3.0
3.3 照度													3.0
3.4 照明制御													3.0
4 空気質環境													3.7
4.1 発生源対策													
1 化学汚染物質													3.0
すべてF☆☆☆☆(A-08仕上表)													
4.2 換気													
1 換気量													3.0
2 自然換気性能													3.0
3 取り入れ外気への配慮													3.0
4.3 運用管理													
1 CO ₂ の監視													3.0
2 喫煙の制御													3.0
喫煙室有り、レベル5の対策を行っている													
Q2 サービス性能													3.4
1 機能性													3.8
1.1 機能性・使いやすさ													
1 広さ・収納性													3.0
2 高度情報通信設備対応													3.0
3 バリアフリー計画													3.0
1.2 心理性・快適性													
1 広さ感・景観(天井高)													3.0
天井高=3950													
2 リフレッシュスペース													3.0
物販部: 48.815/557.78=8.75%													
3 内装計画													3.0
1.3 維持管理													
1 維持管理に配慮した設計													3.0
2 維持管理用機能の確保													3.0
取り組み=9項目													
2 耐用性・信頼性													3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振													
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													3.0
2 免震・制震・制振性能													3.0
2.2 部品・部材の耐用年数													
1 躯体材料の耐用年数													3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													5.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													3.0
給水:B、排水:B、空調:C、消火:C													
2.4 信頼性													
1 空調・換気設備													3.0
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													3.0

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②		3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	2.9
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=1	3.0	2.0	0.23		-	-	2.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.88	3.0	2.6	0.44		-	-	2.6
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	2.9
1 水資源保護			0.1	3.0	0.15		-	-	3.0
1.1 節水			3.0	3.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63		-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	4.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22		-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68		-	-	
1	消火剤		-	-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	5.0	0.50		-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①		3.4	0.33		-	-	3.4
2 地域環境への配慮			0.3	3.5	0.33		-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33		-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自	-	-	-		-	-	
3	悪臭		-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-		-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	5.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)ビッグモーター春日井店

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:4.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)ビッグモーター春日井店

計画上の配慮事項	
総合	幹線道路沿いにある新たな物販店として、建物を可能な限り整形とし、高さを最小限に抑え、道路から離すことで、街並みへの調和を図った。段差の少ない不特定多数が利用しやすい動線計画とした。
Q1 室内環境	空調を行う室の照明はLEDとし、熱負荷を抑え、内装材に化学汚染物質を使用せず、室内環境の向上を図った。
Q2 サービス性能	まちづくり条例に準拠し、バリアフリーな建物とした。 維持管理に配慮した設計として、防汚性の高い塗装や効果的な水切等による外壁汚れの防止、また外部に露出する金属部には溶融亜鉛メッキとし、防錆対策を行った。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に道路と建物との距離を確保し、まちなみや景観に配置した。 また、境界部には連続した塀等を作らずに見通しの良いフェンス・バリカーを設け、開放性を高めることで防犯性・防災性に配慮した。
LR1 エネルギー	建物外皮の熱負荷抑制と設備エネルギーの消費量とコストを考慮し、バランスを考慮した計画とした
LR2 資源・マテリアル	省水型機器を設置することで、節水への取り組みを行った。
LR3 敷地外環境	外観色彩の統一を図り景観に配慮した。
その他	